

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（店長）	・当店は正月、節分、節句などの節目の販売に強い。前回大きく売上を作った恵方巻などが追い風となり、良くなる。
		家電量販店（店長）	・高単価商品であるプラズマ、液晶テレビ、DVDレコーダー、携帯型デジタル音楽プレイヤーやデジカメ、マッサージ椅子などの動きが好転してきているため、今後景気は良くなっていく。
		通信会社（営業担当）	・デジタルの認知が初期購買層の次のステップである早期購買層へ広がり、2006年度には一般層へ広がるのが必至である。
	やや良くなる	スーパー（店長）	・9月以降の営業成績が上昇傾向にあるので、どちらかといえば楽観視している。営業努力あってのことだが、売手の発信する情報やおすすめに對する客の反応が良くなっており、以前のように努力が空回りする感じはない。
		スーパー（総務担当）	・株価が上がっていることもあり、全体的に非常に良い。衣料品がかなり良く、全体的に単価も上昇しているため、今後2～3か月は若干明るい材料が多い。
		スーパー（統括）	・景気の先行きはまだまだ慎重にみていかなければいけないが、個人消費は徐々に回復基調にある。年末年始商材は生活防衛型の価格訴求商品の伸びに比べ、価値訴求型商品の動向が活発で、買物頻度も高くなってきており、全体的には横ばいから少し上昇傾向にある。
		家電量販店（営業担当）	・冬季オリンピック等で映像関連商品が売れる。シーズン商品では、大変寒いために商品によっては前年の3倍以上出る物もあり、メーカー欠品が多く、チャンスロスが発生している。
		乗用車販売店（従業員）	・引き続き新型車が発売となるので、来客数、成約台数共に増加する。
		スナック（経営者）	・来客数はともかくとして、客単価が上がってきている。ここしばらくなかった動きなので期待している。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・予約状況が前年比で約2%上昇しているため、やや良くなる。
		タクシー運転手	・全般的に今年はいいさつ回りが非常に多い。今までは大企業やお役所が多かったが、今年では中小企業はいいさつ回りが非常に多い。
		観光名所（職員）	・新年会のシーズンに入るが、景気が上向き基調にあること等から、客の入込は例年を上回る。
		ゴルフ場（副支配人）	・来客数は10月から前年を上回り、順調にきている。ただし、客単価が低く、売上は依然として低迷している。ここに来て寒さで来客数が少し鈍っているが、製造業関係では年末一杯まで仕事というところも多いようなので、製造業がけん引し、景気は上向いていく。その分、春先の引き合いがあるので、来客数の動きも徐々に良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・株価も安定して高値が続いており、次の投資を探しているような感じがある。必ず次は不動産になると思うので、地価が上昇すれば需要も伸びる。
変わらない	百貨店（売場主任）	・12月一杯は寒さが続くようだが、来年のクリアランスの状況は玉不足もあり、天候に左右されている部分がある。	
	百貨店（販売促進担当）	・客の需要は伸びると思うが、それに見合う商品の供給量が減少する。メーカーが在庫過多にならないようものづくりがタイトになっている状況が不安材料である。	
	スーパー（経営者）	・競合店との価格競争が一段と激化し、利益確保が非常に難しい状況にある。	
	コンビニ（経営者）	・周辺にあるスーパーも年中無休で遅くまで営業しており、コンビニのメリットがなくなってきた。	
	コンビニ（店長）	・最近景気が若干良くなってきたような雰囲気はあるが、実際売上や販売量をみてみると、さほど大きく変わっていない。今後も、雰囲氣的には良くなっていくが、実質的にはそんなに変わっていかない。	
	コンビニ（店長）	・全体的に来客数が減少しているが、深夜の客、特に買上額が多かった客が24時間営業のスーパーを利用するようになったためか、全く来店しなくなっている。今後、これが改善されそうな条件は全く見当たらない。	

	衣料品専門店（経営者）	・ここ4か月の売上は何とか前年比102%を達成しているが、来客数は前年より5%減少している。この傾向はしばらく続く見込みで、深刻な状況である。	
	衣料品専門店（販売担当）	・客層の流れが幾分当店のターゲットにあってきたような雰囲気、フリーの客が増えてきている。今後も今月と同じような雰囲気推移し、若干良くなる。	
	乗用車販売店（営業担当）	・年末はどうしても販売台数が伸びないものだが、商談件数は例年より多い。	
	一般レストラン（業務担当）	・お歳暮ギフトの11月の売上は前年の60%増だったが、12月は前年を10%下回り、結果的に前年並みとなった。1、2月の新年会予約は前年並みの件数を確保しているが、参加人員、料理単価は前年を下回っており、売上は前年を下回る見通しである。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・年末の忘年会予約が予想以上に減少したことから、年始以降の新年会予約はあまり見込めない。しかし、一般予約は徐々に伸びてきており、大型の団体予約がある程度見込めている分、これからの入込次第では例年並み以上となる。	
	遊園地（職員）	・強風や低温などの異常気象による出控えが予想される。	
	設計事務所（所長）	・新規物件の契約の動きが鈍く、時間が掛かるため、急な仕事や細かい仕事も引き受けなくなっている。	
	設計事務所（所長）	・今回の耐震強度偽装事件の影響も含めて伸び悩むのではないかと見込んでいる。1年を通じてなかなか良いことがなかったが、この状況はまだ続く。	
	住宅販売会社（経営者）	・マンションの構造計算偽造問題で、一時的に戸建ての来客が増えているが、景気の回復傾向にはほど遠い。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・これから値上げする品物が多くなり、家計の負担が増えるため、客は財布のひもを締めてしまい、景気の回復には結び付かない。	
	百貨店（総務担当）	・公共事業の減少による営業の悪化が見込まれる。	
	スーパー（経営者）	・来年も、大型商業施設の出店や新規スーパーマーケットの出店が数多くある。競争は加速度的に増えている。	
	衣料品専門店（店長）	・春物立ち上がりの時期となり、暖かい日が続けば動きが良くなるが、今のところこれといったヒット商材が見当たらないので厳しい。	
	住関連専門店（仕入担当）	・季節品中心に売上高が上昇しているため、来月以降の売上高確保は困難である。	
	高級レストラン（店長）	・中小企業や零細企業が多く所得水準の低い当県では、増税による家計の圧迫が大きく、中長期的に売上の減少傾向が現れてくる見込みである。	
	一般レストラン（経営者）	・新駅周辺の大型チェーン店同士での競争が激しい分、個人店への影響は一層厳しくなる。	
	観光型ホテル（経営者）	・お正月過ぎは閑散期になるということ、ゴールデンウィークまでの日並びが特に良くないことから、より一層休日、休前日への集中が予想され、全体の売上が伸び悩む。	
	都市型ホテル（経営者）	・大手電機メーカーの業績不振により、来年の団体関係がキャンセルとなり、予約に大きな穴があいている。穴埋めはできそうもないので、間違いなく前年割れとなる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・第四四半期に良くなると、翌年の第一四半期は少し落ちる傾向にあるため、ここ2、3か月が心配である。新年会、歓送迎会があまり入っていないことや企業の動きが少ないことを考えると、前年よりはやや悪くなる。	
	ゴルフ場（支配人）	・寒さが厳しく、正月以降の予約はあまり伸びていない。これからは冬の天候次第であり、降雪の場合は予約をすべて失う。除雪費用が今後の収支のポイントとなる。	
悪くなる	商店街（代表者）	・中心市街地にある食品スーパーが1月に閉店する。空洞化が進んでいるとはいえ、まだまだ人口はあり、毎日の生活に不便が生じる。当分の間空き店舗となり、先行き不安の材料が多い。	
企業動向関連	良くなる	化学工業（経営者）	・3月末までは受注が目一杯入っており、とにかく忙しい。現在の注文品が終了し、その反動で生産が落ちる4月以降が問題である。次の製品の開発を行っているため、その完成を待っているところである。
	やや良くなる	食料品製造業（製造担当）	・今年の大豆落札価格がどの銘柄も平均で4～5千円くらい下がってきているので、2～3か月後の取引価格は今よりも確実に下がる。

	金属製品製造業（経営者）	・原油、素材価格の高止まりが懸念され、利益にいかに関与させるかが大変ではあるが、機械金属業界では平均して生産、受注とも好調に推移している。	
	不動産業（管理担当）	・1月から入居、稼働するテナントがあり、面積も比較的広い。賃貸収入はその分増加する。ただし、賃料の割引要請は相変わらず強い。契約には至らないものの、空室下見の件数も増加傾向にある。	
変わらない	一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関連の設備投資が堅調であるので、短期的には大きな変化はない。	
	一般機械器具製造業（生産管理担当）	・取引先の話から油圧機器業界、建機業界、自動車業界を中心に、年明け後も引き続き忙しい状況となる。今のところ悪くなるとの話は、全く出ていない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・競争、変動が激しく、思ったより受注が伸びない。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	・業況感が改善されつつあるといわれているが、まだまだ一部のことで、全般的には行き渡っていない。	
	建設業（経営者）	・官需は依然として少なく、民間はますます競争が激しい。	
	広告代理店（営業担当）	・サービス業全般の拡販が、一部を除き伸びが期待できない。年始から春にかけての販促に活発さはみられず、予算も良く前年並みが多い。地元百貨店の春リニューアルオープンが景気をけん引するとは考えられず、厳しい状況はまだ続く。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・印刷会社では一様に仕事量が前年より多くなっており、しばらくはこの傾向が続き、景気は徐々に良くなる。しかし、灯油価格を中旬に値上げした店があり、追従するホームセンターの話では、例年にない早めの雪による暖房費増の及ぼす影響が懸念されるところである。	
	その他サービス業〔放送〕（営業担当）	・官公庁、通信事業からのタイムコマースが年度下期から減少傾向にある。スポットコマースは増えてきているが、1～3月までの売上高は前年同期比で3%程度減少する見込みである。	
やや悪くなる	食料品製造業（営業統括）	・今回の酒税改正により、清酒は引き下げ、ワインは1リットル当たり9円50銭増となる。酒類間の商品の変動が考えられ、ワインにとって大きなイメージダウンとなる。やっと景気が上向いてきたところへ水を差すことになり、今後が心配である。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・例年、年度末前の時期は受注の谷間になり、特注品受注が望めない限り不利な展開となる。しかし、シルバー教室の新規受講者がこのところ増加傾向にあり、いくらか明るい望みもある。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・親会社が仕事を中国へ移転したため、仕事量が10%程度減少している。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・今までは全業種から受注があったが、ここにきて息切れする業種が大分出ている。1～3月の受注がみえているのは自動車関連と医療機関係で、前年並みかやや多いくらいである。他は何業種もあるが、全然受注がない。	
	輸送業（営業担当）	・年内の輸送量が多い分、1、2月は前年比で落ち込む見込みだが、景気の回復により液晶テレビ等の高額商品の輸送も伸びてきている。全般的には原油高の割に、やや厳しい程度である。	
悪くなる			
雇用関連	良くなる		
	やや良くなる		
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・民間企業の求人には活気があるが、3月以降に機構改革のある公共的な機関ではかなりの人減らしがあるのではないかと危機感がある。
		職業安定所（職員）	・新規求職者は4か月ぶりに2,000を下回り、平成16年12月以来の低水準となっている。しかし、平成17年11月末に大手タイル製造会社及びその関連会社で約50名の企業整備があるなど、今後も急速な景気回復は見込めない。
		職業安定所（職員）	・求職者の多くが希望する正社員等の求人が増加し、ミスマッチが解消されるまでは現状のままである。
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・企業の採用活動も再来年にシフトしつつあり、直接の求人はあまり期待できないが、調整のための求人は年明け以降例年並みであると見込んでいる。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・大手スーパー、製造業でのリストラが見込まれている。	
悪くなる	-	-	